

09.1.15.新朝  
泡瀬埋め立て

# きょうから土砂投入

## 沖合の土地造成本格化

沖繩総合事務局は十五日から、中城湾港泡瀬干潟埋め立て（東部海浜開発）事業で中城湾港新港地区の航路しゅんせつ工事を開始する。しゅんせつで生じた土砂は埋め立て予定海域へと投入され、沖合での本格的な土地造成が始まる。

一方で、昨年十一月に那覇地裁は「現時点で埋め立て事業に経済的合理性は認められない」として、県と沖繩市に公金支出差し止めを命じている。同訴訟の原告らは、造成工事が進むことに反発を強めており、判決の確定まで工事を中断するよう訴えている。

総合事務局は地裁判決に

かかわらず、二〇〇八年度当初に発表した計画通りに作業を進める方針。計画では、三月末までに新港地区で十五万五千立方メートルの土砂を掘り出す。現在、埋め立て予定海域は延長約三キロの護岸で囲われており、護岸内側にしゅんせつ土砂を投入していく。

特別自由貿易地域に面した新港地区は航路の水深が浅く、大型船舶の入港が難しい。〇九年度以降もしゅんせつ工事を続けて、三〜四メートルの水深を十一メートル下けるとともに、しゅんせつ土砂を使って一期工事として約九十六万立方メートルを埋め立てて造成する。十四日に工事

開始を発表した沖繩総合事務局中城湾港出張所は「工事の実施に当たっては最大限慎重を期することとしており、環境への影響について十分監視しながら実施していく」と述べた。

泡瀬埋め立て

# しゅんせつ工事開始

## 午後にも土砂投入

泡瀬埋め立て工事の現場。大型クレーンが土砂を吊り上げ、海中に投入している。背景には山並みと海が広がる。

泡瀬埋め立て工事の現場。大型クレーンが土砂を吊り上げ、海中に投入している。背景には山並みと海が広がる。

泡瀬埋め立て工事の現場。大型クレーンが土砂を吊り上げ、海中に投入している。背景には山並みと海が広がる。



泡瀬埋め立て工事の現場。大型クレーンが土砂を吊り上げ、海中に投入している。

埋め立て工事を経て、十二年度までに現在三、四メートルの水深を十一メートルに引き上げることが、しゅんせつ土砂を使い一週工

甲として約八十六万立方メートルを埋め立てる予定。今回の工事は埋め立てへの既設航路が、土砂の埋め立てが可能になったため開始した。

09.11.15 新タリ

「貴重な自然を埋め殺すな」などとシュプレヒコールする反対派グループ=15日午前9時16分、うるま市の中城湾港東埠頭前



反対グループ「判決を守れ」

長はあいさつで「これから市、県が発展するためには、東部海浜開発と港の水深十一メートルが欠かせない。しゅんせつ開始を喜びたい」と歓迎した。反対派は泡瀬干潟を守る連絡会（小橋川共明代表）が主催。約二十人が参加し「貴重な自然を埋め殺すな」などとシュプレヒコールを繰り返した。小橋川代表は「市民の声を無視して土砂を投げ入れる暴挙に怒りを覚える。破壊した自然を子々孫々に残していいはずがない」と抗議した。

「泡瀬」しゅんせつに賛否

ガンバロー三機でしゅんせつ工事開始を歓迎する推進派グループ=15日午前8時40分、うるま市の中城湾港東埠頭前



推進グループ「早期完成を」

【中部】中城湾港新港区の航路しゅんせつに伴う埋め立て予定海域への土砂投入開始を受け、しゅんせつ作業が実施されるうるま市の中城湾港東埠頭前では十五日午前、推進、反対の両グループがのぼりや横断幕を掲げてそれぞれ集会を開き「市東部発展のために早期完成を」「経済的合理性がないと断じた裁判判決を守れ」と賛否の声を上げた。東部海浜リゾート開発推進協議会（仲村富吉会長）などが主催した推進集会には約四十人が参加。仲村会

すぐ工事中止を  
泡瀬埋め立て、東京で抗議  
【東京】泡瀬干潟の埋め立て工事が始まった十五日午前、泡瀬干潟大好きクラブの水野隆夫代表ら六人が

衆議院議員会館前で座り込みをして抗議した。水野代表は「内閣府、県、市が干潟を埋め立てる暴挙を犯している。すぐに工事を中止し、沖洲の宝を守ってほしい」などと訴えた。

09.1.15 新報 夕刊

3		AS 100
3		A1 000
3	08 210	AS 200
3	01 154	AS 000
3	03 11 8	A3 20
3	03 11 2	A1 200
3	01 11 30	AS 000
3	01 11 18	AS 200
3		AS 200
3	0001-8-32	A1 340
3	0001-10-8	AS 000
3	0001-10-30	A2 40
3	08 24	AS 160
3	08 250	A0 210
3	08 275	A0 160
3	08 31	A0 210
3	08 24	AS 030
3	08 218	AS 40
3	08 231	A0 160

泡瀬干潟の人工島造成地にダンプカーから投入される土砂＝15日午後、沖縄市

09.1.16 新報 朝日



泡瀬埋め立て

# 土砂投入を開始

## 反対派、海上から抗議

【沖縄】中城湾港泡瀬干潟埋め立て（東部海浜開発）事業で、沖縄総合事務局は十五日午後、中城湾港新港地区の航路しゅんせつ作業で生じた土砂約千立方メートルを泡瀬干潟の埋め立て予定海域に投入した。十六日以降、土砂投入量を増やし、三月末までに新港地区泊地の十五万五千立方メートルの土砂を投入するという。

同局によると、二〇二二年度までに現在三、四層の水深を十一メートルまで掘り下げ、同作業で生じるしゅんせつ土砂を使い一期工事として約九十六万立方メートルを埋め立て完成する予定。

昨年十一月、那覇地裁が同事業について、経済的合

理性が認められないとし、県知事と沖縄市長に以後の公金支出の差し止めを命じる判決を下したが、総合事務局は被告でないことから〇八年度当初の計画通り作業を進める方針。

同局の川崎俊正港灣計画課長は「今回の工事は沖縄振興にとって重要なもの。今後とも県や沖縄市と連携しながら計画通り進めていく」と事業の重要性を強調。那覇地裁判決に対しては「現在、沖縄市が土地利用計画を見直しているため、国として注視していきたい」と話した。

埋め立て工事などに反対する泡瀬干潟を守る連絡会の小橋川共男共同代表ら六人は十五日午後、小型ボートに乗り込み、しゅんせつ海域周辺で、土砂投入の中止を求めてシュプレヒコールで抗議した。